

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

研究 0-1

1. 医学部・医学系研究科

研究 1-1

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況	研究成果の状況	質の向上度
医学部・医学系研究科	期待される水準にある	期待される水準を上回る	質を維持している

医学部・医学系研究科

I	研究の水準	研究 1-2
II	質の向上度	研究 1-4

I 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「研究活動の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の論文発表数は平均392.3件となっている。また、「サルを用いた疾患モデルの確立とヒトの疾患治療法開発への応用」等、5件の重点研究におけるインパクトファクター（IF）を持つ学術雑誌への論文発表数は平均128.8件となっている。
- 科学研究費助成事業の新規採択状況は平成22年度の43件（約1億2,600万円）から平成27年度の69件（約1億7,200万円）となっている。
- 第2期中期目標期間の科学研究費助成事業を除いた外部資金の受入金額について、受託研究は約5億3,800万円から約7億7,900万円、共同研究は約4億5,300万円から約7億3,000万円、寄附金は約4億5,400万円から約6億8,100万円の間をそれぞれ推移している。

以上の状況等及び医学部・医学系研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 学術面では、神経化学・神経薬理学、疫学・予防医学、代謝学、麻酔科学、病態検査学、医療系薬学の細目において卓越した研究成果がある。
- 卓越した研究業績として、特に神経化学・神経薬理学の「アルツハイマー病における病原性アミロイドβ産生に関する研究」、疫学・予防医学の「国民代表集団コホート研究 NIPPON DATA」、「アジア太平洋コホート共同研究 APCSC」の研究等6細目で7件の業績がある。中でも、「アルツハイマー病における病原性アミロイドβ産生に関する研究」では、アミロイドβの脳内産生を抑制する新たな制御分子 ILEI を同定するなど、診断、治療法の開発に資する知見を提供しており、研究成果はトップジャーナルに掲載されている。
- 社会、経済、文化面では、特に、神経化学・神経薬理学の細目において卓越

した研究成果がある。

- 卓越した研究業績として、神経化学・神経薬理学の「アルツハイマー病における病原性アミロイドβ産生に関する研究」がある。そのうち、「アルツハイマー病における病原性アミロイドβ産生に関する研究」は、アルツハイマー病の今後の診断法や治療法開発に寄与し、発表論文はマスメディアで取り上げられている。

以上の状況等及び医学部・医学系研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

なお、医学部・医学系研究科の専任教員数は 373 名、提出された研究業績数は 79 件となっている。

学術面では、提出された研究業績 72 件（延べ 144 件）について判定した結果、「SS」は 2 割、「S」は 6 割となっている。

社会、経済、文化面では、提出された研究業績 29 件（延べ 58 件）について判定した結果、「SS」は 1 割未満、「S」は 5 割となっている。

（※判定の延べ件数とは、1 件の研究業績に対して 2 名の評価者が判定した結果の件数の総和）

II 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「研究活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第2期中期目標期間の論文発表数は、平均 392.3 件となっており、5つの重点研究における IF を持つ学術雑誌への論文発表数は、平均 128.8 件となっている。

分析項目Ⅱ「研究成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 5件の重点研究等、広い分野に渡った研究成果や、産学連携、他領域連携による成果が得られている。
- アルツハイマー病における病原性アミロイドβ産生に関する研究では、アミロイドβの脳内産生を抑制する新たな制御分子 ILEI を同定し、研究成果はトップジャーナルに掲載されている。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における研究水準の結果も勘案し、総合的に判定した。